



2023年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年2月10日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- 私から2023年3月期 第3四半期の連結決算概況および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。
- 本日は非継続事業を除いた継続事業を中心にご説明いたしますが、非継続事業の詳細についてはAppendixに掲載しておりますので、ご参照ください。
- それでは、決算概況についてご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第3四半期及び累計実績

☑ 昨今の急激な環境の変化やリスクへの対応策を引き続き実行し、売上高・営業利益ともに2桁成長を実現

- 売上高：連結で+17%成長。医療分野の売上高は3Q及び累計において過去最高の売上高
内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 営業利益：3Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

☑ 前回の見通しより、為替を除いて売上高・営業利益ともにほぼ据え置き。経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む

- 売上高・営業利益：前期比16%増の8,710億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
- 当期利益**：科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,760億円、EPSは前期比229%増の297円となる見通し

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年3月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値になります

(スライド3)

- 2023年3月期 第3四半期決算における主なポイントです。
- 第3四半期も引き続き、半導体をはじめとする部品の供給不足や原材料価格の高騰などの影響がありましたが、状況は改善しつつあり、自社努力で可能な範囲でリスク最小化の対策を講じてまいりました。
- 売上高は連結で17%の増加です。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成し、医療分野は第3四半期及び累計としても過去最高の売上高となりました。
- 営業利益は、第3四半期及び累計において、額・率ともに過去最高となりました。
- 続いて通期業績見通しです。
- 前回の見通しから、為替前提を見直しました。第3四半期までの実績を踏まえ、為替影響を除く売上の予想を若干引き下げたものの、調整後営業利益は据え置きとなります。経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超の達成見込みは変わりません。
- 売上高は、前期比16%増の8,710億円、営業利益は額・率ともに過去最高を見込んでおります。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益を計上し過去最高の3,760億円、EPSは297円、EPS成長率は229%となる見通しです。



01

2023年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2023年3月期 第3四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2023年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 売上高：連結で+17%成長。医療分野の売上高は3Q及び累計において過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 営業利益：3Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*。累計の調整後営業利益率は20.0%

第3四半期累計実績（4-12月）

第3四半期実績（10-12月）

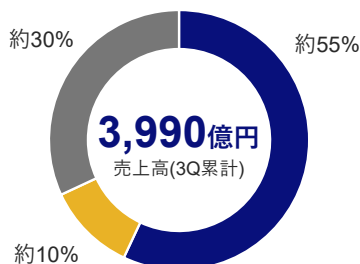
	第3四半期累計実績（4-12月）				第3四半期実績（10-12月）			
	（単位：億円）	FY2022	FY2023	FY2022比	為替除き FY2022比	FY2022	FY2023	FY2022比
売上高	5,472	6,415	+17%	+3%	1,871	2,245	+20%	+4%
売上総利益 （売上総利益率）	3,661 (66.9%)	4,337 (67.6%)	+18%	+1%	1,247 (66.7%)	1,562 (69.6%)	+25%	+6%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	2,591 (47.4%)	3,061 (47.7%)	+18%	+7%	902 (48.2%)	1,076 (47.9%)	+19%	+7%
その他の収益および費用など	▲47	149	-	-	▲30	3	-	-
営業利益 （営業利益率）	1,022 (18.7%)	1,426 (22.2%)	+39%	+6%	316 (16.9%)	490 (21.8%)	+55%	+14%
調整後営業利益 （調整後営業利益率）	1,075 (19.7%)	1,281 (20.0%)	+19%	▲12%	347 (18.6%)	488 (21.7%)	+40%	+3%
税引前利益 （税引前利益率）	970 (17.7%)	1,394 (21.7%)	+44%		286 (15.3%)	500 (22.3%)	+75%	
継続事業からの当期利益 （継続事業からの当期利益率）	830 (15.2%)	1,056 (16.5%)	+27%		245 (13.1%)	361 (16.1%)	+47%	
非継続事業からの当期利益	49	28	▲21億円		8	53	+566%	
当期利益	878	1,084	+23%		253	414	+64%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	877	1,082	+23%		253	414	+64%	
EPS	68円	85円			-	-		

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

（スライド5）

- まず、連結業績の概況です。
- 第3四半期累計の連結売上高は6,415億円です。連結で17%の成長となり、医療分野は第3四半期及び累計として過去最高の売上高となりました。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成しました。
- 売上総利益は4,337億円、売上総利益率は0.7ポイントの改善です。原材料価格の高騰などの影響はあるものの、第3四半期に中国での売上が増加したことによる地域別売上構成の変化および円安による為替影響を主要因として、改善しました。
- 販管費は3,061億円、販管費比率は0.3ポイントの悪化です。特に、販売活動に伴う費用やQARAをはじめ事業運営基盤強化のための費用などが増加しました。
- その他の損益などは、149億円です。主な要因は、その他の収益として第1四半期に東京都内の土地の売却益約164億円、第3四半期にMedi-Tate社の買収対価の一部である条件付対価の公正価値の変動により、取得時の買収対価が修正され、約13億円を計上したことによるものです。
- 営業利益は1,426億円、前期比で404億円、39%増加しました。営業利益率は3.5ポイント改善し、22.2%でした。なお、経営戦略のマイルストーンである、その他の収益およびその他の費用を除いた調整後営業利益率は20.0%となりました。
- 継続事業の当期利益は1,056億円、継続事業のEPSは83円、EPS成長率は29%となりました。継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は1,084億円、EPSは85円、EPS成長率は25%となりました。
- 当期は、売上成長を阻害する要因が複数存在し、かつ費用増となる環境下にありながらも、成長分野や運営基盤強化への投資も行いながらの運営です。引き続き、不透明さが残りますが、3年前に設定した調整後営業利益率20%超を必達目標として取り組んでまいります。

2023年3月期 第3四半期実績 ②内視鏡事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	1,131	3,337	1,405	3,990
営業利益	300	916	418	1,107
その他の損益**	▲9	▲40	▲9	▲23
営業利益率 (為替影響調整後)	26.5%	27.4%	29.7% (25.7%)	27.7% (24.0%)
調整後営業利益率	27.3%	28.6%	30.4%	28.3%

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (10-12月) 売上高成長率

円ベース
為替込み

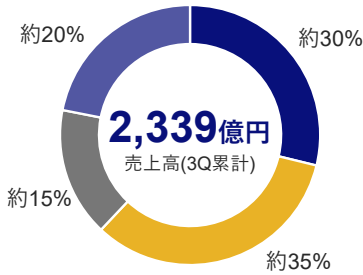
為替影響
調整後

事業セグメント	円ベース 為替込み	為替影響 調整後
■ 消化器内視鏡	27%	10%
■ 外科内視鏡	7%	▲7%
■ 医療サービス	27%	10%
合計	24%	8%

(スライド6)

- 続いて、各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は3,990億円、20%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は1,130億円、調整後営業利益率は28.3%でした。
- 上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国での売上が回復し、すべての地域、サブセグメントで増収となりました。円安が追い風となり、特に北米の売上が増加しました。アジア・オセアニアも堅調に推移しています。「EVIS X1」の拡販をはじめとした売上成長に伴う費用や、QARAなど運営基盤強化のための費用など、販管費の増加があったものの、主に増収と円安による為替影響により、調整後営業利益は増益となりました。その他の費用は、前期に計上した開発資産に係る減損損失約16億円の影響がなくなり、改善しています。
- 各分野の第3四半期（10-12月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡では、第1四半期に発生した上海ロックダウンの影響による受注残の解消が進んだ中国を中心に、海外で売上を伸ばしました。半導体などの部品不足の影響による出荷遅れも依然としてある中、欧州、アジア・オセアニア地域では「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が堅調に推移し、増収となりました。
- なお、「EVIS X1」シリーズの売上割合は、第3四半期も引き続き消化器内視鏡のサブセグメントの中で10%を超えています。また、導入済みの地域における「EVIS X1」の売上高は、前年同期比で約25%のプラス成長となっており、市場への浸透が加速しています。
- 外科内視鏡では、腹腔鏡手術用の硬性鏡の販売が堅調に推移した北米に加え、外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が堅調に推移した中国が牽引し、増収となりました。為替影響調整後では、欧州において半導体などの部品供給不足により納期の長期化が発生していることなどがマイナスに影響しています。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加などもあり、北米をはじめ全ての地域でプラス成長となりました。

2023年3月期 第3四半期実績 ③治療機器事業



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	706	2,037	810	2,339
営業利益	136	438	183	481
その他の損益**	▲8	13	13	12
営業利益率 (為替影響調整後)	19.2%	21.5%	22.6% (21.5%)	20.6% (19.2%)
調整後営業利益率	20.4%	20.9%	21.0%	20.1%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / **FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。FY2022の実績も同様に組替え済

FY2023 vs FY2022 (10-12月) 売上高成長率

円ベース 為替込み

事業領域	成長率	為替影響調整後
消化器科 (処置具)	12%	2%
泌尿器科**	22%	3%
呼吸器科	14%	▲2%
その他の治療領域	8%	▲5%
合計	15%	0%

(スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は2,339億円、15%のプラス成長でした。調整後営業利益は470億円、調整後営業利益率は20.1%でした。
- 欧米での症例数の回復に加え、円安も追い風とし、全ての分野で増収となりました。QARA対応などの費用の発生や事業活動の回復に伴い販管費が増加しましたが、調整後営業利益は増益です。その他の収益では、前期の第1四半期にMedi-Tate社の段階取得に係る差益約28億円を計上した一方で、今期の第3四半期にはMedi-Tate社の買収対価の一部である条件付対価の公正価値の変動により、取得時の買収対価が修正され、約13億円を計上しました。
- 各分野の第3四半期（10-12月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、特に症例数が増加している北米で好調に推移し、全ての製品群でプラス成長となりました。スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子などのサンプリング用や、膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP（Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術）用、病変の切除に使用されるESD（Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術）・EMR（Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術）用の製品群売上が引き続き拡大しました。COVID感染者数が急増した日本・中国では症例数の低下に伴って、減収となりました。
- 泌尿器科では、症例数の回復が進んでいる北米を中心に好調に推移しました。BPH（Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症）用の切除用電極と尿路結石用破砕装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System（ソルティブ スーパーパルスド レーザーシステム）」が引き続き牽引しました。
- 呼吸器科では、主にキャピタル製品において、COVID感染拡大に伴う呼吸器関連の予算などがあった中国での販売が好調でした。北米も円安効果によって増収に貢献しています。EBUS-TBNA(Endobronchial ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration/超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具が堅調に推移しました。また、為替影響調整後では、前年同期にロシアなどで大型入札案件があった欧州における反動減などがマイナスに影響しています。
- その他の治療領域では、エネルギーデバイス「Powerseal」が堅調に推移しました。北米が円安効果によって増収に貢献しています。また、為替影響調整後では、欧州において、「THUNDERBEAT」が部材不足の影響を顕著に受けていることに加え、前年同期にロシアで大型入札案件があったことによる反動減などがマイナスに影響しました。
- 第3四半期までの実績は、部材供給不足による納期の長期化や、第1四半期に発生した上海ロックダウン、第3四半期における日本・中国でのCOVID感染拡大による症例数の低下など、事業成長を阻害する複数の外部要因によって当社の計画を下回る結果となりました。このような影響を受け、第3四半期累計の売上成長率は為替影響調整後でプラス1%となりましたが、仮に部材不足と上海ロックダウンの影響を除いた場合、約4%のプラスだったと想定しております。今後も必要な施策への投資を継続し、事業成長を加速させてまいります。

財政状態計算書

- ☑ 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、それに直接関連する負債として記載
- ☑ 為替の影響（約630億円）が含まれていることから、バランスシートは減少

(単位：億円)	2022年3月末	2022年12月末	増減額		2022年3月末	2022年12月末	増減額
流動資産	6,946	7,225	+279	流動負債	3,763	3,553	▲210
棚卸資産	1,674	1,709	+35	社債および借入金	523	532	+9
売却目的で保有する資産	47	1,323	+1,276	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	0	328	+328
非流動資産	6,634	6,701	+67	非流動負債	4,704	4,318	▲386
有形固定資産	2,471	2,334	▲138	社債および借入金	3,338	2,995	▲343
無形資産・その他	2,518	2,537	+19	資本	5,114	6,056	+942
のれん	1,645	1,830	+185	自己資本比率	37.6%	43.4%	+5.8pt
資産合計	13,580	13,926	+346	負債および資本合計	13,580	13,926	+346

(スライド8)

- 2022年12月末の財政状態です。
- 第2四半期より、非継続事業の資産および負債は、「売却目的で保有する資産」「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」として明記しています。
- バランスシートは346億円増加していますが、為替の影響約630億円を除けば減少となります。
- 税引前利益は増加しているものの、法人所得税の支払やデモ・ローナー品、リース資産等の有形固定資産の取得、東京、長野での再開発や自己株式取得に伴う支出等によって、現預金は減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で5.8ポイント増加し、43.4%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 営業CFは549億円のプラスとなり、特殊要因を考慮した調整後FCFは424億円のプラス
 - ☑ 財務CF： 自己株式の取得（400億円*）や配当金支払い、社債の償還（400億円）による支出などにより、1,124億円のマイナス
- 第3四半期累計実績（4-12月）

（単位：億円）		FY2022	FY2023	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	970	1,394	+424
		営業キャッシュフロー	1,153	549	▲603
		投資キャッシュフロー	▲571	▲379	+193
		フリーキャッシュフロー	581	171	▲410
		調整後フリーキャッシュフロー	909	424	▲485
		財務キャッシュフロー	▲93	▲1,124	▲1,031
		現金および現金同等物期末残高	2,751	2,113	▲638

2022年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩など	▲112億円
投資CF：事業・子会社の取得など	▲216億円

2023年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲348億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入など	+191億円
投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲75億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

*総額で500億円を予定
非継続事業のキャッシュフローはAppendix（P.23）をご覧ください

（スライド9）

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、549億円のプラスとなりました。科学事業再編に伴う税金支出、日本において2021年11月の中間納付が発生せず2022年5月に年間の税金を一括納付したこと、および繰越欠損金がなくなったことなどによる法人税の支払増加や、部品不足を背景とした部材の前倒し購入による在庫の増加などを背景とした運転資本の増加など、多くの特殊要因、当期特有の事情が前年と比較して減少の主要因です。
- 投資キャッシュフローは、379億円のマイナスとなりました。前期はMedi-tate社買収に伴う支出が計上された一方、当期は東京都内の土地売却による有形固定資産の売却による収入による増加があり、改善しております。
- フリーキャッシュフローは、171億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは424億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、1,124億円のマイナスとなりました。自己株式の取得や配当金の支払い、社債の償還による支出などが主な要因です。
- 結果、2022年12月末の現金および現金同等物残は638億円減の2,113億円となりました。



02

2023年3月期 通期業績見通し

(スライド10)

- 次に、2023年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

☑ 前回見通しから為替を除いてほぼ据え置き。経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む

- 1 売上高・営業利益： 前期比+16%増の8,710億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
 2 当期利益*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,760億円、EPSは前期比229%増の297円となる見通し

(単位：億円)		2023年3月期 11月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2022年3月期 実績****	前年比	為替影響調整後 前年比
**継続事業	売上高	8,920	1 8,710	▲210	▲2%	0%	7,501	+16%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	6,130 (68.7%)	5,940 (68.2%)	▲190	▲3%	0%	5,067 (67.5%)	+17%	+2%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,135 (46.4%)	4,110 (47.2%)	▲25	▲1%	0%	3,575 (47.7%)	+15%	+4%
	その他の収益および費用など	125	150	-	-	-	▲30	-	-
	営業利益 (営業利益率)	2,120 (23.8%)	1 1,980 (22.7%)	▲140	▲7%	+1%	1,462 (19.5%)	+35%	+10%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	2,005 (22.5%)	1,840 (21.1%)	▲165	▲8%	0%	1,507 (20.1%)	+22%	▲3%
	税引前利益 (税引前利益率)	2,060 (23.1%)	1,970 (22.6%)				1,417 (18.9%)		
	継続事業からの当期利益	1,570 (17.6%)	1,490 (17.1%)				1,107 (14.7%)		
	非継続事業からの当期利益	2,300	2,270				53		
	当期利益	3,870	3,760				1,160		
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3,870 (39.2%)	2 3,760 (43.2%)				1,157 (13.3%)			
EPS	305円	297円				90円			

2023年3月期配当
年間配当16円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年3月に非継続事業（エビファント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値となります
 ****監査前の数値となります

(スライド11)

- 前回の見通しから、為替前提を見直しました。第3四半期までの実績を踏まえ、為替影響を除く売上の予想を若干引き下げたものの、調整後の営業利益は据え置きとなります。なお、業績見通しの前提となる年間平均想定為替レートは、1ドル135円、1ユーロ140円としています。なお、詳細につきましては当資料の24ページ、Appendixに為替感応度の情報と共に纏めておりますのでご参照ください。
- 売上高は前期比16%増の8,710億円を見込んでいます。
- 営業利益は額・率ともに過去最高、前期比35%増の1,980億円、調整後営業利益率は21.1%となる見通しです。
- 引き続き複数のリスク要因は顕在化しており、先行き不透明な状態は変わりませんが、経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を必達目標として、あらゆる取り組みを進めてまいります。
- 当期利益は、科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の3,760億円となる見通しです。また、EPSは297円、EPS成長率は229%となる見込みです。また、継続事業の当期利益は1,490億円、継続事業のEPSは118円、EPS成長率は37%を見込んでいます。
- 2023年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、16円を予定しております。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み
米国における「EVIS X1」の導入は2024年3月期中頃に延期。本件による業績への影響は軽微と予想
- 2** 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)	2023年3月期 11月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し*	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2022年3月期 実績**	前年比	為替影響調整後 前年比
内視鏡	売上高	5,520	▲100	▲2%	0%	4,615	+17%	+5%
	営業利益	1,735	▲100	▲6%	0%	1,332	+23%	▲1%
治療機器	売上高	3,290	▲110	▲3%	▲1%	2,756	+15%	+3%
	営業利益	750	▲55	▲7%	+1%	608	+14%	▲2%
その他	売上高	110	-	-	-	130	▲15%	▲18%
	営業損益	▲15	▲15	-	-	▲20	+5億円	+5億円
全社・消去	営業損益	▲350	+15	+15億円	+15億円	▲458	+123億円	+164億円
連結合計	売上高	8,920	▲210	▲2%	0%	7,501	+16%	+4%
	営業利益	2,120	▲140	▲7%	+1%	1,462	+35%	+10%
(参考) 非継続 事業	売上高	950	+240	+25%	+28%	1,187	0%	▲13%
	営業利益	3,540	▲40	▲1%	▲1%	77	+4,445%	+4,352%

*2023年3月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値になります **監査前の数値となります

(スライド12)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業と治療機器事業は引き続き前期比で2桁成長を実現し、両事業を合わせた医療分野の売上高は過去最高となる見通しです。
- なお、EVIS X1の米国での発売は2023年3月期中の予定とお伝えしておりましたが、発売前にすべての規制要件を確実に満たすためスケジュールを見直しました。現時点では、2024年3月期中頃の発売を目指しております。本延期による業績への影響は軽微と考えています。
- 内視鏡事業では、半導体などの部品不足の影響は改善しつつあり、引き続き日本、欧州、アジアでの「EVIS X1」の拡販効果に期待をしています。中国では、第1四半期に発生した上海ロックダウンの影響による入札及び商談の遅れに伴うパントアップデマンドや、医療機器に対する低金利の融資策などの政府の後押しもあり、成長を見込んでいます。
- 治療機器事業では、引き続き注力3分野を中心に成長を見込んでおります。日本・中国においては、COVIDの感染拡大により症例数が低下していますが、欧米では、症例数の回復に伴って主力の製品群の販売が好調に推移すると見えています。
- 引き続き、全社的に新規の採用抑制や、各種プロジェクトの見直し、不要不急の海外出張の制限、研究開発における優先順位の見直しなど、販管費のコントロールを行うことで、不安定・不透明な状況の中でも経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超の目標達成に取り組んでまいります。
- 非継続事業は、譲渡益を計上し、大幅な増益を見込んでいます。

Warning LetterとQARA（品質保証・法規制対応）強化の取り組み

FDAからのWarning Letter

- 2022年11月3日に会津オリンパス、2022年12月15日にオリンパスメディカルシステムズ株式会社は、米国食品医薬局（FDA）よりWarning Letterを受領し、文書管理と設計検証および医療機器報告（MDR）を適時に提出することなどに関して指摘を受けた
- FDAからの要請にタイムリーに対応できるよう、文書や対面でのやり取りを通じて、FDAと緊密にコミュニケーションを図っている

グローバル化をはじめとするQARA（品質保証・法規制対応）強化の取り組み

- ☑ グローバルな苦情処理の改善プログラム：コンプライアンスを確保するための新しいプロセスとプラットフォームを実行
- ☑ CQOの下で独立したグローバルな品質保証・製品法規制対応の組織を立ち上げ、CEOに直接レポート（メドテックカンパニーにおけるQARAの知見、経験を持った多くの人材の採用を含む）
- ☑ すべてのオリンパスの拠点と事業にグローバルな品質システムとガバナンスモデルを導入
- ☑ 設計および製造プロセスと記録の改善

（スライド13）

- スライド13ページをご覧ください。
- まず、先日FDAから受領したWarning Letterの内容と当社の品質保証・法規制対応強化の取り組みについてお話しします。
- 2022年7月に行われた会津オリンパスの査察および2022年9月に行われた八王子事業所の査察に関し、2022年11月3日に会津オリンパス、2022年12月15日にオリンパスメディカルシステムズ株式会社は、FDAからWarning Letterを受領し、文書管理と設計検証および医療機器報告（MDR）を適時に提出することなどの指摘を受けました。現在、FDAからの要請にタイムリーに対応できるよう、文書や対面でのやり取りを通じてFDAと緊密にコミュニケーションを図り、改善に努めています。
- これまで当社は、品質保証・法規制チームのグローバル化をはじめとして、QARA強化の取り組みを進めてきました。まず、コンプライアンスを確保するための新しいプロセスとプラットフォームにより、グローバルな苦情処理の改善プログラムを実行しています。また、CQOの下で、メドテックカンパニーにおけるQARAの知見、経験を持った多くの人材の採用を含む、独立したグローバルな品質保証・法規制対応の組織を立ち上げ、CEOに直接レポートする仕組みを構築しました。すべてのオリンパスの拠点と事業にグローバルな品質システムとガバナンスモデルを導入し、設計および製造プロセスの記録の改善も行っています。
- なお、こうした取り組みにかかる投資の総額は現在精査中です。合理的に見積もることが可能になった時点で、その見通しをお知らせいたします。最新の通期見通しでは、今年度分として14億円の費用を織り込んでいます。
- 世界をリードするメドテックカンパニーになるために、品質保証・法規制対応機能をさらに強化し、患者さんの安全を最優先とした品質とコンプライアンスをグローバルで確立してまいります。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

開示の変更点

科学事業（エビデント）の譲渡に伴い、第2四半期より科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

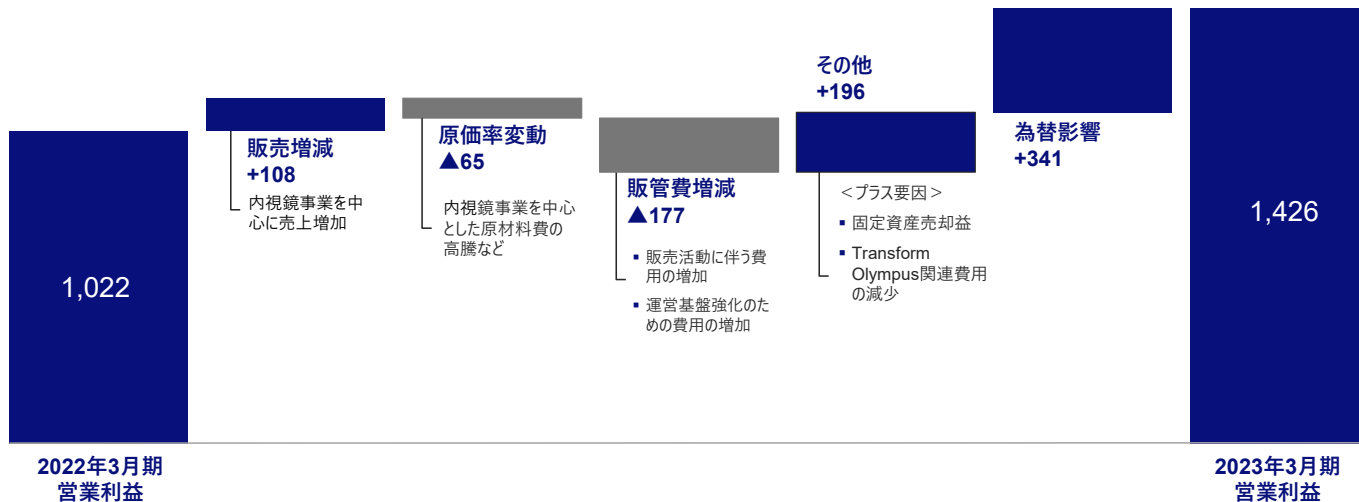


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、科学事業に関わる損益を非継続事業に分類するとともに、前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています。なお、売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。また、2023年3月に全株式の譲渡が完了する前提での記載となっています。

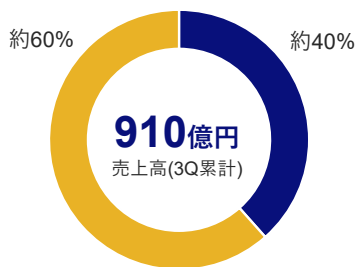
2023年3月期 第3四半期実績 連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2023年3月期 第3四半期実績 非継続事業 (科学事業)



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	296	826	383	910
営業利益	11	67	64	15
その他の損益*	▲38	▲46	▲33	▲83
営業利益率 (為替影響調整後)	3.7%	8.1%	16.6% (10.8%)	1.6%
調整後営業利益率	16.5%	13.6%	25.3%	10.7%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (10-12月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

	円ベース 為替込み		為替影響 調整後
■ ライフサイエンス	26%	<ul style="list-style-type: none"> 研究所、大学での予算執行が堅調に推移。特に、1Qに発生した上海ロックダウンの影響を受けていた中国では、受注残の解消が進み、増収に貢献 	11%
■ 産業	32%	<ul style="list-style-type: none"> 航空・ガスパイプライン市場などの顧客市場における設備投資状況が好調。1Qに発生した上海ロックダウンの解除により出荷が増加している中国や、円安効果の大きい北米が増収に貢献 	14%
合計	29%		12%

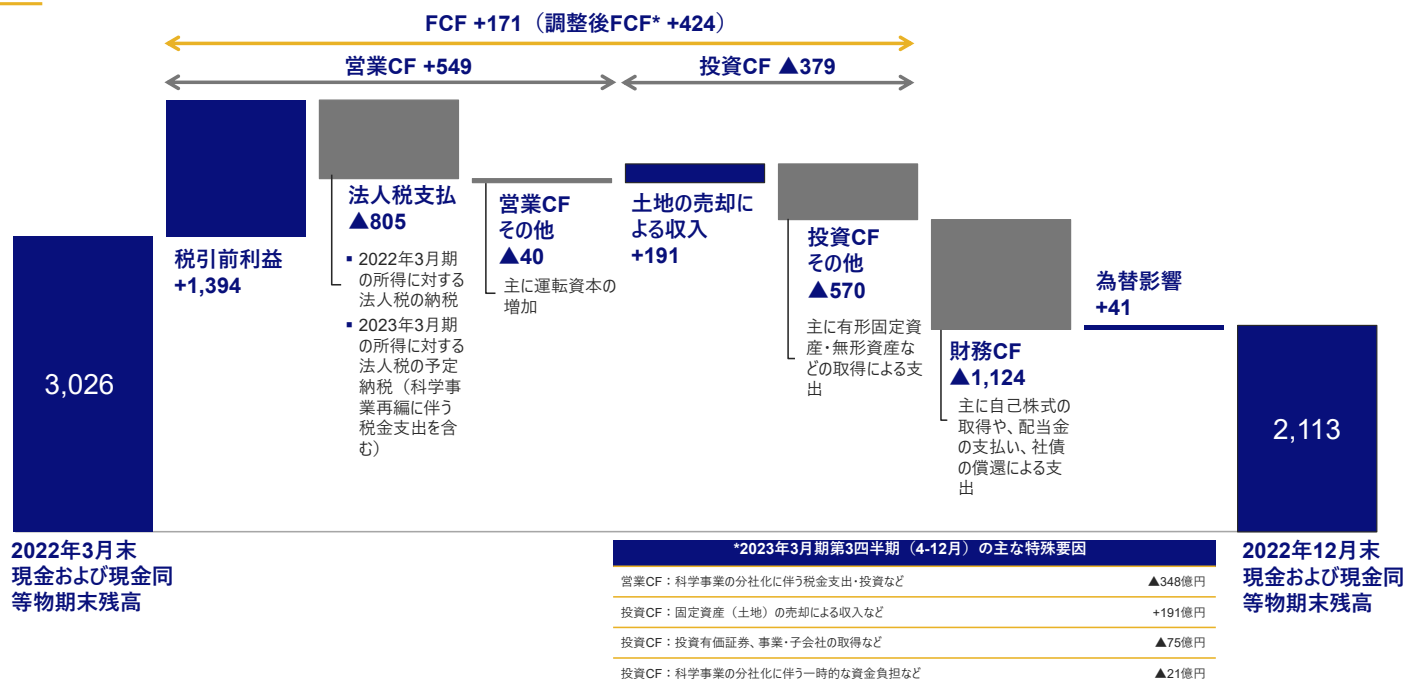
非継続事業のキャッシュフロー 第3四半期実績 (4-12月)

	FY2022	FY2023	増減
営業キャッシュフロー	68	▲137	▲204
投資キャッシュフロー	▲46	▲82	▲36
財務キャッシュフロー	▲7	▲14	▲7

2023年3月期 第3四半期実績 セグメント別概況

第3四半期累計実績 (4-12月)					第3四半期実績 (10-12月)				
(単位：億円)	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後	
内視鏡	売上高	3,337	3,990	+20%	+5%	1,131	1,405	+24%	+8%
	営業利益	916	1,107	+21%	▲8%	300	418	+40%	+5%
治療機器	売上高	2,037	2,339	+15%	+1%	706	810	+15%	0%
	営業利益	438	481	+10%	▲10%	136	183	+35%	+12%
その他	売上高	98	86	▲12%	▲15%	34	30	▲12%	▲16%
	営業損益	▲15	▲9	+6億円	+7億円	▲3	▲1	+2億円	+2億円
全社・消去	営業損益	▲317	▲153	+164億円	+178億円	▲116	▲110	+6億円	+11億円
連結合計	売上高	5,472	6,415	+17%	+3%	1,871	2,245	+20%	+4%
	営業利益	1,022	1,426	+39%	+6%	316	490	+55%	+14%
(参考) 非継続事業	売上高	826	910	+10%	▲4%	296	383	+29%	+12%
	営業損益	67	15	▲78%	▲144%	11	64	+487%	+232%

連結キャッシュフロー 増減要因



プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年2月10日時点)



2023年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入を準備し、収益性を改善

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)▪ EVIS EXERA III (米国、欧州)▪ EVIS LUCERA ELITE (中国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)▪ VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ EVIS X1 (米国)▪ EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ EVIS X1 (中国)▪ シングルユース十二指腸内視鏡▪ 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">▪ VISERA ELITE III (米国)

17%

2023年3月期
売上高成長率¹

1 円ベースの成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年2月10日時点)



2023年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 気管支鏡における次世代プラットフォーム「EVIS X1」を米国で発売
- Veran Medical technologies社の統合による肺がん分野におけるソリューション拡大を通じて成長を加速

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 3製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 5製品 (日本)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

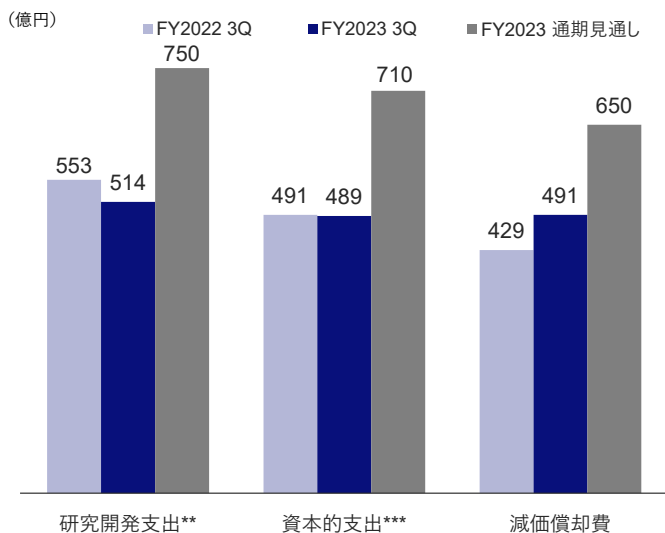
*注：医薬品医療機器等法承認品など、一部地域における承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれており、1円ベースの成長率

15%

2023年3月期
売上高成長率¹

投資など

第3四半期累計実績（4-12月）および通期見通し*



(単位：億円)	FY2022	FY2023
研究開発支出** (a)	553	514
開発費資産化 (b)	96	88
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	457	426

(単位：億円)	FY2022	FY2023
償却費	51	62
	2022年9月末	2022年12月末
開発資産残高	538	534

*2023年3月期第2四半期連結会計期間より、科学事業を非継続事業に分類しています。これに伴い、当スライドの研究開発支出、資本的支出、減価償却費は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています
 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています／*資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2022 3Q：105億円、FY2023 3Q：67億円、FY2023 見通し：80億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2022 1Q	FY2022 2Q	FY2022 3Q	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2023 3Q	前回見通し	FY2023 最新見通し
円/USドル	109.49	110.11	113.71	129.57	138.37	141.59	140	135
円/Euro	131.96	129.84	130.07	138.12	139.34	144.30	139	140
円/CNY	16.96	17.02	17.78	19.58	20.19	19.87	20	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	11
1ユーロ（1円あたり）	16	7
人民元（1円あたり）	60	39

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています